

五島 登前会長が逝去

かねてより療養中のNPO法人学生航空連盟前会長の五島 登様が、去る令和4年1月21日、95歳にて逝去いたしました。

生前、学生航空連盟及び滑空スポーツの発展に多大なご尽力をされました。故人のご功績に衷心より感謝申し上げ、心からご冥福をお祈り申し上げます。

葬儀は、家族葬で執り行われました。

五島様の生涯をかけた活動は、学生航空連盟の歴史そのものです。生前のご活躍について、あらためてご紹介申し上げ、故人を偲びたいと思います。



平成23年9月 航空関係者表彰式で

グライダーはじめ

五島様は、昭和2年2月19日生。昭和18年、16歳で陸軍飛行学校に入隊。この時初めてグライダーの訓練を受けました。

学生航空連盟入会

昭和27年2月、専修大学在学中、学生航空連盟の前身である全日本学生航空連盟に入会しました。この年10月、全日本学生航空連盟は発展的解消し、学生航空連盟が発足しました。

全国都市訪問飛行

昭和29年6月、自家用操縦士資格を取得。10月、読売新聞本社創立80周年記念都市訪問飛行に八木沢敬氏(故茶野敬氏、明治大学)と共に学生操縦士として選拔され、9日間にわたり69都市を訪問飛行しました。この事業は、戦後の混とんとした社会情勢の中で、青少年に航空への憧れを抱かせ、その後の航空スポーツの発展に多大な貢献をしたものといえます。

指導・育成

昭和30年3月、大学卒業。昭和31年教育証明を取得。以後、学生航空連盟のリーダーとして長きにわたり多くの会員を指導し、多くの操縦資格取得者を育成しました。

昭和45年は、大和町移転までは読売新聞社の援助を受けながらの運営でしたが、移転後は、学生航空連盟による独立採算の運営に変わりました。リーダーとして積極的に運営に取り組みました。

OB会設立

昭和47年、OB・OGの親睦をはかり学生航空連盟の発展に協力する目的でOB会を設立。その後、組織的なOB会となっていないことから、昭和58年の大規模滑空場拡張工事の際、正式にOB会を設立し、初代会長に就任しました。OB会長としてOB・OGをまとめ、学生航空連盟の伝統と誇りを継承し、発展に貢献しました。

SAFMGクラブ設立

平成3年1月、SAFMGクラブを設立しクラブ代表に就任しました。学生航空連盟の姉妹クラブとしてMG機を使用した地域の子供会体験飛行或いはOB飛行会等で学生航空連盟の活動を支援してきました。平成28年、体調不良のためクラブ代表を退任し、平原健一氏に引き継ぎました。

学生航空連盟会長

平成11年、学生航空連盟会長の小林與三次様(読売新聞名誉会長)の死去に伴い、以後の会長は学生航空連盟会員が就任することとなり、五島様は平成17年、中継ぎで一時的に会長の任にあたりました。

国際航空連盟賞受賞

平成17年度航空関係者表彰において、日本航空協会会長より「学生航空連盟のリーダーとして50年の長きに亘り、後進の指導育成にあたり、グライダーの操縦技術向上や振興発展に貢献された」として国際航空連盟賞エア・スポーツメダルが授与されました。

NPO法人学生航空連盟設立

平成22年4月、学生航空連盟及び学生航空連盟OB会を統合し、NPO法人学生航空連盟を設立。初代会長に就任しました。法人格を得て、滑空スポーツを通じて社会貢献活動を行うことになりました。

国際航空連盟賞受賞

平成23年度航空関係者表彰において、日本航空協会会長より「滑空機の教育証明を1956年に取得して以来、多くの操縦資格者を誕生させるとともに、2012年の学生航空連盟60周年を機にNPO法人化を発案、2010年正式に認証されるなどリーダーとして大いにその指導力を発揮された」として国際航空連盟賞ポール・ティサンディエ・ディプロマが授与されました。

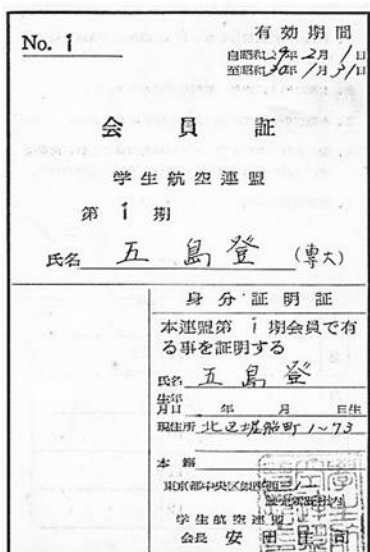
NPO法人学生航空連盟会長退任

平成30年、体調不良による療養が続き、平成31年3月理事を退任。会長職は6月理事会において奈良修一氏を選任、引き継がれました。学生航空連盟の伝統と歴史は継承され、新たな時代を迎えました。

航空亀齡賞受賞

令和2年度航空関係者表彰において、日本航空協会会長より「長年にわたり学生航空連盟の指導及び航空スポーツの裾野拡大に尽力され、航空の普及発展に多大な貢献をされた」として航空亀齡賞が授与されました。

昭和 28～29 年頃



都市訪問飛行 タチヒ号前で



羽田空港ページェントで



二子玉川で